

# 意見交換資料

以下のテーマに関する企業の実態や今後行政に必要な取組みなど、皆様の意見をお伺いします。

## 1. 働き方改革について

「ニッポン一億総活躍プラン」では労働力不足の解消のため、長時間労働の是正や女性の社会進出の推進等、「働き方改革」の必要性が示されています。本市においても、職員一人ひとりがやりがいや充実感を得ることができる生活環境をつくるのが、市民サービスの向上にもつながると考え、「時間外労働時間の縮減」や「男性職員の育児休暇取得の促進」等、ワークライフバランスの実現に向けた取組みを進めています。

委員の皆様の職場等における事例を伺い、市の取組みの参考にさせていただきたいと考えています。

## 2. 人材の確保・育成について

県内の有効求人倍率は1.5倍を超え、どの企業でも人材の確保と育成が急務とされています。本市においても、組織の活性化や職員力の向上を図るため、「職員採用試験へのSPI（企業の採用試験などに用いられる総合適性検査）の導入」や「職員研修の充実」等の取組みを進めています。

委員の皆様の職場等における事例を伺い、市の取組みの参考にさせていただきたいと考えています。

# 在宅勤務を試験導入

## 袋井市 多様な働き方構築へ

袋井市は24日、仕事場に出動せず自宅などで働くテレワークを、一部の職員を対象に実施した。同日の取り組みを参考に介護や育児、病気療養時などにおける多様な勤務体系を構築する。

「ミニミニセンター」準備室の鈴木一弘室長(46)は市役所での会議を終えると、午前10時から新規条例の素案作成など終日自宅で作業した。テレワークは短期で取り組む業務の効率化につながるとの見解を示し、「自宅勤務の課題を抽出して庁舎内で共有することが重要」と振り返った。



自宅で業務に取り組む鈴木室長＝袋井市内

同日は鈴木室長のほか20～50代の男女7人が自宅で作成や環境。県内では静岡市働き方改革へ総務省などが呼び掛ける「テレワーク・デー」の一環。県内では静岡市も参加した。袋井市は象に試験的に導入す8月も一部職員を対

# 磐田市若手職員が発表会

## 公共施設活用策も

磐田市は16日、若手規事業提案会を市役所で開いた。主に30代の職員15人が市幹部を前に発表した。



試作のロボットを披露しながら、「IT教育支援策」を発表した市職員＝磐田市役所

し、専門家と連携した実機を使った指導計画を示した。

別のチームは、企業連携による若者交流センターの運営、民営保育園の開設支援などの公共施設活用策を発表した。都市計画課副主任の杉浦輝さん(39)は「職員同士で話し合うことで、若者や子育て世代に魅力的な磐田市にしたい」と思いが深まった。今後の仕事に生かしたい」と成果を語った。

市は今後、政策会議などで18年度の事業化の可否を検討する。草莽塾は10年度から続き、今回で8回目。塾の提案から事業化した事例も複数ある。(磐田支局・高松勝)